プロジェクト紀行

# 名古屋の街と博覧会

## ― 都市発展の軌跡 ―

明治43年 鶴舞公園

池田　誠一

### ― 連載にあたって ―

2005年の万博の後、世の中から「博覧会」という言葉が消えてしまったようです。それは、もう博覧会というものが時代遅れになったからでしょうか。

過去を振り返ってみると、都市にとって博覧会は極めて重要なイベントでした。名古屋も博覧会とともに大きくなったといわれています。都市にとって博覧会とはいったいなんだったのでしょうか。改めて考えてみる必要がありそうです。

そこで、今回は「都市と博覧会」をテーマに、名古屋における博覧会を紹介し、その意味を考えつつ街の変遷を追ってみたいと思います。

## 【1】文明開化と博覧会…スタートした都市間競争

### 1　トップを追った名古屋博覧会

日本最初の博覧会は、明治４年（1871）、京都で開かれた「京都博覧会」だとされています。10月10日から11月11日まで、西本願寺大書院で行われました。

我が国で「博覧会」というものが広く紹介されたのは、幕末の1865年。福沢諭吉の『西洋事情』の中といいます。そして1867年には、パリの万国博にも出展していました。それも幕府の他、薩摩藩も琉球王国として、さらには佐賀鍋島藩も有田焼の売店を出店したのです。そして明治時代に入るとすぐ、国内でも博覧会を開く試みが始まりました。

国内最初の京都博の行われた明治４年の秋、実は、名古屋でも博覧会が開かれていました。京都博の終了日の11月11日から５日間、大須の総見寺で「名古屋博覧会」が開かれたのです。名古屋は、全国でもトップを追って博覧会都市になりました。

もちろん当時は今日のような博覧会ではなく、見世物を少し発展させた程度の催しでした。が、ヨーロッパの博覧会も、スタートはそんなものだったようです。

## 2 博覧会の歴史

### (1)ヨーロッパの博覧会

博覧会は、文明の進んでいたヨーロッパで始まりました。とくにイギリスのロンドンとフランスのパリです。17、8世紀のヨーロッパは新大陸の発見で珍しい物が流入し、物品陳列所が出来るようになりました。そして18世紀の後半には、公立の、動物園、植物園、さらには博物館が誕生しました。一方、そのころ、百貨店も登場しました。時代は新しい文明・文化の始まりを告げていました。博覧会は、それらのルーツともいえるもので、新しい文明の試行の場だったのです。

博覧会というと特殊に聞こえますが、それは日本語訳のイメージでしょう。博覧会とは、今日でも催しものに多く使われている、

Exhibision、Fair

の訳語なのです。

| 開催年 | 開催地 | 入場者数（万人） | 会場面積（エーカー） | 開催期間（月） | 部門数 | 政府館数 | 企業館数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1851 | ロンドン | 600 | 26 | 4.8 | 4 | | |
| 1855 | パリ | 520 | 34 | 6.7 | 9 | | |
| 1862 | ロンドン | 620 | 25 | 5.7 | 4 | | |
| 1867 | パリ | 680 | 215 | 7.2 | 10 | 20 | 10 |
| 1873 | ウィーン | 730 | 42 | 6.2 | 26 | 7 | 9 |
| 1876 | フィラデルフィア | 990 | 285 | 5.3 | 7 | 8 | 6 |
| 1878 | パリ | 1600 | 192 | 6.5 | 9 | 17 | 2 |
| 1889 | パリ | 3240 | 237 | 5.7 | 10 | 31 | 2 |
| 1893 | シカゴ | 2750 | 685 | 6.1 | 13 | 17 | 3 |
| 1900 | パリ | 4810 | 543 | 7.0 | 18 | 32 | 2 |
| 1904 | セントルイス | 1970 | 1272 | 6.1 | 16 | 19 | — |
| 1915 | サンフランシスコ | 1890 | 635 | 9.8 | 11 | 21 | 7 |
| 1933 | シカゴ | 4880 | 500 | 12.0 | 11 | 6 | 9 |
| 1937 | パリ | 3400 | 424 | 6.0 | 14 | 38 | 6 |
| 1939 | ニューヨーク | 4490 | 1217 | 12.0 | 8 | 22 | 34 |
| 1958 | ブリュッセル | 4150 | 500 | 6.0 | 8 | 39 | 15 |
| 1964 | ニューヨーク | 5160 | 646 | 12.0 | — | 34 | 37 |
| 1967 | モントリオール | 5090 | 1000 | 6.0 | 5 | 40 | 27 |
| 1970 | 大阪 | 6420 | 815 | 6.0 | 9 | 38 | 22 |

図1　その後開催された、主な万国博（大阪まで、文献①）

そしてヨーロッパでは産業革命の進展とともにその製品の販売が大きな課題になり、博覧会には見本市の要素が取り入れられていきます。競争も激しくなります。主なものでも

1756年　英国産業博覧会
1798年　パリ工業博覧会
1851年　ロンドン国際博覧会

と英仏間で競い合っていました。そこではじめて国際化を果たしたロンドン博が、その後、実質的な万国博覧会の第１回とされるようになりました。世界の大都市で、今度は万国博競争が始まることになったのです（図１）。

### (2)日本の博覧会

さて、明治の初めの日本の博覧会はどうだったでしょうか。明治４年（1871）に行われた最初の京都博は、予想以上の11,500人の入場者があり、遷都で沈滞した京都の町に活気を与えました。京都ではその後、毎年開かれるようになります。

その年の名古屋に続いて、翌５年には、岡崎・和歌山・広島・金沢等でも博覧会と称する催しが開かれます。政府も東京の湯島聖堂で博覧会を開催し、博覧会ブームに火が付きました。

その後も各地で開催されていきますが、注目されるのは、10年、政府主催、上野公園で開催された「内国勧業博覧会」でしょう。大久保利通の構想で、なんと西南戦争の最中でも中止されませんでした。産業を６分類するなど見世物的要素を排したもので、出品数も８万点余です。会期102日間で、45万人の入場者を数えました。博覧会は、文明開化の潮流の中で、産業振興型のイベントとして国内にも定着していくことになります。

### (3)名古屋での博覧会

前述の４年の名古屋博の詳しいことは分かりませんが、主催者は文明社（後に「名古屋新聞」を発刊）で出品録が残っており、出品数は

図２　戦災で焼失する前の東別院本堂（文献④）

400程、まだ古美術品が多かったようです。

次は、７年に東別院で行われた名古屋博覧会です（図２）。５月11日から30日までの予定でしたが、出品数が増え、会場は西別院が追加され、会期も６月10日まで延長されています。ここには無用と下におろされていた名古屋城の金のシャチも展示されました。

そして11年には、名古屋にも、県内の産業振興を目的とした博物館が作られました。民間が県の助成を得て建設したもので、場所ははじめて博覧会が開かれた大須の総見寺です。当初の規模は分かりませんが、その後拡大されて、面積１万３千㎡、内に７館が建てられました。16年には県立となり、美術館と動物園もつくられました。名古屋の文明開化も、博覧会とともに進むことになったようです。

## 3 紀行 大須から東別院へ

### … 明治初期の博覧会跡 …

それでは、明治初期の博覧会が開かれた、中区の大須と東・西の別院のある橘町付近を歩いてみましょう。まず、最初の博覧会が開かれた総見寺に向かいます。

**〈大須から〉**

地下鉄の大須観音駅のエレベーター出口を出て、すぐ北の道を東に入ります。この道は、赤門通と呼ばれ、大正頃、大須を東西に結ぶ幹線道路として新設されました。左に大

本町通の奥に総見寺の広大な敷地があった。
赤門通はその後につくられた

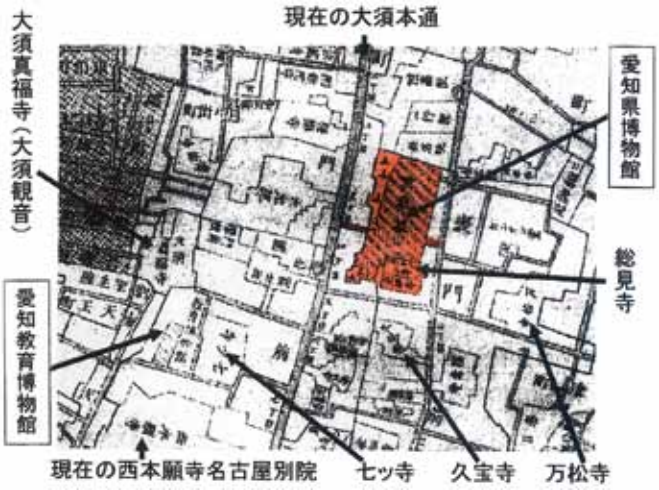


図３　明治20年代の大須。
総見寺は大きな寺域があり、その中に博物館がつくられた（文献⑥から）

光院を過ぎると本町通です。この辺りから南は昔は門前町といい、明治時代の名古屋では最も繁華な場所の一つでした。当時の総見寺は、この正面の裏に、左から右に、１本東の裏門前町通りにわたる大きな寺域を占めていました（図３）。その余裕の空間で、４年には博覧会が開かれ、11年には博物館が建設されることになったのでしょう。旧町名の門前町、裏門前町の「門」は、この総見寺の東西の

図４　愛知県商品陳列館。
横側から見たところ（文献⑤）

門だったといいます。

博物館はその後、愛知県商品陳列館となり、場所も移されて区画整理でその痕跡も消えてしまいました（図４）。しかし、場所は変わりましたが残存した建物があります。その中にあった品評所で、11年、巡幸中の明治天皇が博物館で開かれていた愛知県博覧会に来られた時に仮の御座所になった建物です。「龍影閣」と名付けて維持され、今では熱田神宮内に移されています。

さて、赤門の信号を渡り右に、２本目を左に曲がると小さな公園の左向こうに現在の総見寺があります。信長の二男・信雄が父の菩提を弔うため伊勢につくったものが、清須を経てここに移りました。いつもは公開されていませんが信長の墓所がある寺です（現在は本堂等の改築中）。ここでは、その一帯にまたがる大きな総見寺をイメージしてから、本町通に戻って南に進みましょう。

現在の総見寺の門。
この奥に信長の墓がある（現在工事中）

博物館のあった総見寺裏。
区画整理で道路ができた

大須の本町通。門前町

**〈東別院へ〉**

大須を過ぎ幹線道路（岩井通）を渡ると、急に静かになり、左右には仏壇屋が並びます。南に１本行くと西側に西別院があります。ここも広大な寺域がありました。江戸時代、その空間を使って、葛飾北斎が「大ダルマ」の絵

西別院。
この奥に有名人を育てたスケート場もある

東別院。
大きな本堂が再建された。広い境内がある

を描いたことでも有名です。７年の博覧会では予定された東別院だけで出品物を収容しきれず、ここも分会場になりました。

仏壇屋街の本町通を南に進みます。漆喰づくりの家が残る橘町を通り、２つ目の信号を左に曲がると右手に大きな東別院の建物が見えてきます。寺の手前で右に曲がり、幼稚園の横から寺に入ります。左に本堂が、右に山門が、いずれも巨大です。この寺の広大な敷地は、織田信秀が築いた古渡城の跡を、尾張藩２代藩主光友が寄進したものです。

本堂は、名古屋で最大の建物とされ、別棟も多かったため、７年の名古屋博が開かれたのでしょう。ここには博覧会の後、軍に庁舎を取られた県庁が移ってきたほか、11年の明治天皇のご巡幸の時の宿舎にもなりました。東の門を出ると右に名古屋テレビ、左に下茶屋公園があります。戦前はここも東別院の敷地で御殿と庭園がありました。

古渡城跡（天守付近）とされる下茶屋公園。
下の池は堀を改修したものといわれる

公園を通り過ぎ、幹線道路（大津通）に出て右に下ると地下鉄の東別院駅です。

・　・　・

大須から橘町につづく本町通は、当時は名古屋の中心の通りでした。なかでもこの付近は、城下の入口で、熱田や東海道にも近かったのです。そして、大きな寺の建築物と土地が、当時の博覧会開催に都合がよかったのではないでしょうか。

## 4 博覧会と都市間競争

初期の博覧会は、近代文明の開化した都市に生まれました。18～19世紀にかけて、まず、ロンドンとパリで博覧会の競争が始まります。ロンドンではクリスタルパレス（水晶宮）がつくられ、パリではエッフェル塔ができました。そして万国博には、古都ウイーンや、新興国アメリカのフィラデルフィア等が参戦します。それらはまさに、国家の威信をかけた都市間競争の始まりでもありました。

日本国内でも、まず京都、そして東京が大きな博覧会を開催します。都市は政治の舞台から産業の振興へと軸足を移し、ここでも都市間競争が始まるのです。小さいながらも早々と博覧会競争に参加した名古屋。これからどのような道を歩くことになるのでしょうか。

〈主な参考文献〉

①吉見俊哉『博覧会の政治学』（1992、中公新書）
②湯原公浩編『日本の博覧会　寺下勍コレクション』（2005、別冊太陽）
③同館編『名古屋の博覧会』（1982、名古屋市博物館）
④平野豊二『大須大福帳』（1980、双輪社）
⑤「愛知県写真帖」（1913、愛知県　→復刻：2011、マイタウン）
⑥蟹江・西川「愛知県教育博物館関係資料の紹介と解説②」（2006、名古屋大学博物館報告22）

＊タイトルの写真は、明治43年の第10回関西府県連合共進会（左）と昭和12年の汎太平洋平和博覧会（右）